



# グリーンメール



令和3年度  
Vol.1

鳴門藍住農業支援センターだより

〒771-1220 徳島県板野郡藍住町東中富字舩傍示 2 9

TEL : 088-692-2515 FAX : 088-692-0355

[http://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/naruto_aizumi/)

## 女性農業者のための トラクタ安全使用講習会を開催しました！

令和3年1月13日（水）、鳴門藍住農業支援センターで**女性農業者対象のトラクタ安全使用講習会**を開催し、約20名の方に参加いただきました。

まず、当支援センター職員から農作業事故の発生状況や事故事例、トラクタの特徴を踏まえた事故防止について、講習を行いました。

次いで、株式会社中四国クボタからお迎えした講師から、トラクタの始業点検をはじめ、トラクタのエンジンオイル、冷却水等の点検方法や耕うん爪の点検・交換方法等について説明を受けました。

試乗では、参加者が2台のトラクタに試乗し、エンジンのかけ方から移動、耕うん・旋回と降車方法等について体験しました。参加者からは、「機会の少なかった乗車体験ができて良かった。」「点検方法のポイントを学べて良かった。」などの感想があり、大変好評でした。



支援センター職員による講習



点検方法の説明



ご挨拶

鳴門藍住農業支援センター 所長 水田 巧

令和3年度の業務がスタートしました。当支援センターでは、この度の定期異動により新しいメンバー6名を迎え、昨年度から1名増員された16名の新体制で、地域農業・農村の振興に努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

さて、昨年から国内で拡大している新型コロナウイルス感染症は、人々の生活様式を一変させ、農業においても、農産物販売の低迷や価格の下落など大きな影響が出ているところです。

農業者の高齢化や減少、労働力不足など課題が山積する中、農産物に関する環境も大きく変わってきており、情報の入手とその活用がこれまで以上に重要になってきております。

県においては、令和3年度の施策として、コロナ禍における生産販売対策をはじめ、AIやIoTを活用したスマート農業の実装や気候変動対策などを進めることで、本県農業の「守り」を固め、「攻め」に転じることとしております。支援センターにおいても、技術指導や補助事業の活用支援を進めるとともに、農業者が必要とする情報を一層的確に伝えていきたいと考えておりますので、引き続き御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

# 令和3年度鳴門藍住農業支援センターの新体制を紹介します

**所長**  
**水田 巧**



支援センターの総括

## 農業支援第二担当

経営体や認定農業者、認定新規就農者の育成支援や補助事業、野菜・果樹・畜産等の普及を行っています。



**担当リーダー**  
**課長補佐**  
**大西 範幸**

農業支援第二担当の総括、経営者サポート事業、農地中間管理事業、農福連携、六次産業化、藍住町担当



**課長補佐**  
**岡島 博道**

制度金融、認定農業者、振興協議会、畜産・経営、松茂町担当

## 鳴門藍住 ブランド推進担当

ブランド品目の振興に取り組んでいます。



**担当リーダー**  
**課長補佐**  
**佐藤 佳宏**

ブランド推進担当総括  
砂地畑対策、野菜（かんしょ、らっきょう）



**課長補佐**  
**高橋 泰**

経営所得安定、水稻、雇用労働力確保、環境保全直接支払事業、人・農地プラン作物、板野町担当



**課長補佐**  
**板東 康成**

普及推進関係事業、鳥獣被害防止対策関係事業、果樹・野菜・担い手、上板町担当



**主席**  
**鈴木 啓介**

産パ事業、強い農業・担い手づくり交付金、次世代人材投資事業、野菜・経営、北島町担当



**課長補佐**  
**澤田 英司**

農業指導班、農業環境対策、スマート農業、野菜（れんこん）



**主席**  
**北岡 祥治**

新規就農者、農業士、農産振興関係事業、野菜（にんじん）・担い手、鳴門市担当



**主任**  
**宮本 ちはる**

農地集積対策（農地中間管理事業除く）、耕作放棄地対策、集落営農、地力診断、野菜・経営



**主任主事**  
**河田 綾子**

農山漁村未来創造事業、鳥獣被害防止対策、野菜・果樹・花き・担い手



**係長**  
**林 真弓**

女性農業者の育成、環境保全型農業（エコファーマー等）、GAP、果樹（柿）・花き・担い手



**主事**  
**小林 浩平**

青年農業者、農業災害・気象、農業版BCP、野菜・果樹・作物・担い手



**地方創生  
推進員**  
**中村 真人**

六次産業化、地産地消



**主任主事**  
**坂部 和也**

ブランド戦略関係事業、植物防疫・農薬、野菜（ブロッコリー）・果樹・花き



**主事**  
**松永 虎太郎**

肥料・農薬展示ほ、農作業安全、普及情報発信、野菜（だいこん）・果樹・花き

## スマート農業トピックス

令和3年3月16日（火）に、鳴門市なし園でロボット芝刈機による除草の実演が行われました。

ロボット芝刈機は、動く範囲をワイヤーで囲い、その中を自動走行して草刈りを行います。スマートフォンで遠隔操作ができ、なし園にいなくても機械の様子がわかります。自動でバッテリー充電を行うので、疲れ知らずで昼夜を問わず稼働できます。

スマート農業が注目される中、徳島県のなし園でも能力を発揮してくれれば、夏場の除草作業で労力軽減が期待されます。JAでは、なし生産者に試してもらいその効果を試す予定であり、今後注目です。



実演の様子



ロボット  
芝刈機

## 水稲＜初期の水管理＞

- 生育面から見ると、移植直後は苗のしおれを防ぐために深水とし、活着後は地温・水温を高めるため浅水管理としましょう。
- 除草の面から見ると、除草剤散布後に田面が露出すると効果が落ちるので、少なくとも5日間は湛水を保つ必要があり、またジャンボ剤を使用する場合は投げ込み時に水深を5～7cmと深めにしておく必要があります。
- スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策から見ると、水深が深いと貝が活発に活動することに加え、葉を水中に引き込みやすくなるので浅水にすることが望ましく、初期の被害が多いので薬剤防除は早めに行う必要があります。
- 上記を踏まえた水管理の考え方  
移植直後は深水にしますが、貝の活動を確認したらすぐに薬剤防除で対応します。除草剤は田植同時もしくは移植後日数が短くても使える剤を選択し、登録の範囲内で早めに処理して水深を深く保つ期間を短くし、浅水管理へつなげる生育・除草・貝対策の三方よしの水管理としましょう。

## ＜中干しは必ず行いましょう＞

近年栽培面積が増えている奨励品種「あきさかり」は分けつが旺盛な品種です。茎数が増えすぎると紋枯病の発生や白未熟粒による品質低下の原因となるので、中干しは必ず行いましょう。



## 春のスクミリンゴガイ防除について



↑ 水口網

出水口・排水口の周りは深くなりやすく、被害を受けやすいので、ネットや金網を設置して水田内への侵入を防ぎましょう。網目は貝を通さず扱いやすい9mmを使い、田植え前の入水時から、移植後3週間まで設置するのが望ましいです。

田植え時の薬剤防除は、メタアルデヒド粒剤、燐酸第二鉄粒剤、チオシクロラム粒剤等が有効です。

スクミリンゴガイは水深が深いと活動が活発化します。幼苗期にあたる田植え後約3週間、水深を4cm以下に維持することで、摂食行動を抑制できます。

出典：スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害防止対策について(農林水産省)  
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>

## 柑橘類 ＜病害虫の防除と摘果＞

- そうか病の防除は、発芽直後に薬剤散布を行いましょう。
- 開花期に訪花昆虫（ハナムグリ、ケシキスイ等）が吸蜜に来ると、雌しべの根本にある果実の基が傷つき、商品性を損ないます。開花初期と開花盛期が防除適期です。
- 落弁期にこまめに花弁を振り落として、灰色かび病の発生を防ぎましょう。落弁期に雨が降ると発生を助長するので、薬剤散布による防除を行ってください。
- 不知火については、6月中に仕上げ摘果を終わらせておきましょう。
- 不知火の摘果基準は、120葉に1果とします。



## なし <摘果と防除について>

- 今年の豊水の満開は3月29日、幸水は4月1日となりました。
- 予備摘果は満開から40日までを目安に行いましょう。予備摘果は、生理落果終了後早めに行います。原則として、1花そう1果（たて長で形の良い3～5番果）を残し、葉のない花そうは全部摘果してください。最終摘果は6月中旬までに行い、結果数は幸水で9,000果/10a、豊水で11,000果/10a以内としてください。
- 防除も重要な時期です。雨天で散布できなかった薬剤は雨後にしっかり散布しましょう。
- 天気が良い日が続くと土壌が乾燥しますので、かん水を適時行いましょう。



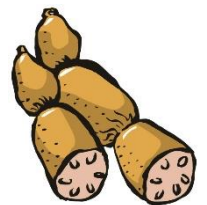
## かんしょ<育苗・ほ場管理について>

- 育苗管理  
気温が上昇するため、ハウス内はさらに高温多湿条件となります。焼けを防ぐため、換気を十分に行ってください。アブラムシ類、ハダニ類等の発生に十分注意し、本ばに持ち込まないよう適切に防除を行ってください。
- ほ場管理  
ハイバリアーやおせんぼ等の難透過性フィルムを使用している場合、水分が多いほ場ではクロルピクリンが残っている場合があります。定植は、におい等でクロルピクリンが残っていないことを確認してから行いましょう。気温が高くなるにつれ、アブラムシ類やダニ類が発生します。アブラムシ類は横縞症の媒介も行うので、見つけ次第防除してください。乾燥しているほ場では、スプリンクラー等によりかん水を行ってください。定植後40日頃までは、土壌水分は多めの方が芋の収量や品質が良くなります。1回目の追肥は植え付け後40～50日が目安です。ただし、施肥量が多すぎると過繁茂となり芋の品質が落ちます。また、急激な肥効も芋のワレの原因につながりますので注意してください。



## れんこん <追肥、害虫防除と雑草の対策を行いましょう>

- 追肥  
立葉2～3葉目から徐々に肥料の吸収が高まっていきます。生育状況や葉色を見ながら、追肥を行いましょう。
- アブラムシの防除  
浮き葉や立葉1～2葉期にアブラムシが多数寄生すると、生育が抑制され地下茎の肥大が阻害されるため、発生初期の防除に努めましょう。畦畔の雑草やほ場内のウキクサ、コナギなどの水生植物上でアブラムシが増殖するので除草に努めましょう。
- イネネクイハムシの防除  
雑草にも産卵するので、周辺の雑草を除去しましょう。成虫発生期の6月下旬に、トレボン粒剤を散布しましょう。



4月10日～6月10日の期間は『春の農作業安全運動月間』です！作業は一人でせず、周りに注意し、声を掛け合いながら、事故防止に努めましょう。



Facebookはじめました。

鳴門藍住農業支援センター

検索